

甦る！古代吉備の国

謎の鬼ノ城

～城内を探る～



古代山城とは

鬼ノ城は総社市の北部、吉備高原の南端に位置する標高約400mの鬼城山に築かれた古代山城です。

660年、中国の唐と朝鮮半島の新羅が結び、百済を滅ぼしてしまいます。百済と親交の深かった日本は救援に向かいますが、663年に白村江の戦いにおいて唐と新羅の連合軍に惨敗してしまいます。このとき、唐と新羅の侵攻を恐れた日本の朝廷が西日本各地に城をつくらせたと『日本書紀』には記されています。

古代山城は、現在、西日本を中心に20数か所が知られていますが、これらの山城の中には、文献に記載がなく、いつ誰が何の目的でつくった城なのかわからないものがあります。鬼ノ城もそのひとつで、その謎を解明すべく、活発な議論がなされています。

岡山県古代吉備文化財センターでは、こうした謎を究明すべく平成18年度から発掘調査を行っています。

7世紀、東アジアでは戦争が多発し緊張状態がありました。



● 文献に記載のある城 ● 文献に出てくるが場所のはっきりしない城 ● 文献に記載のない城 ■ 奈良時代の城

- 1 鬼ノ城
- 2 大廻小廻山城
- 3 城山城
- 4 常城
- 5 茨城
- 6 屋嶋城
- 7 讃岐城山城
- 8 永納山城
- 9 石城山城
- 10 高安城
- 11 三尾城
- 12 長門國の城
- 13 御所ヶ谷城
- 14 鹿毛馬城
- 15 大野城
- 16 怡土城
- 17 雷山城
- 18 金田城
- 19 杷木城
- 20 高良山城
- 21 女山城
- 22 帯隈山城
- 23 おつぼ山城
- 24 基肄城
- 25 鞠智城
- 26 唐原城
- 27 阿志岐城

鬼ノ城 - 外郭部の調査 -

鬼ノ城は、地元では古くから「温羅^{うら}伝承」の舞台として親しまれてきました。温羅とは、この地に移り住み、いろいろと悪事をはたらいたため、朝廷の命を受けた吉備津彦命^{きびつひこのみこと}に退治された伝説の鬼神のことです。その居城が鬼ノ城といわれ、断崖絶壁の地にそそり立つ大きくて長い城壁、眼下の広大な眺望は、まさに温羅の居城にふさわしいといえます。

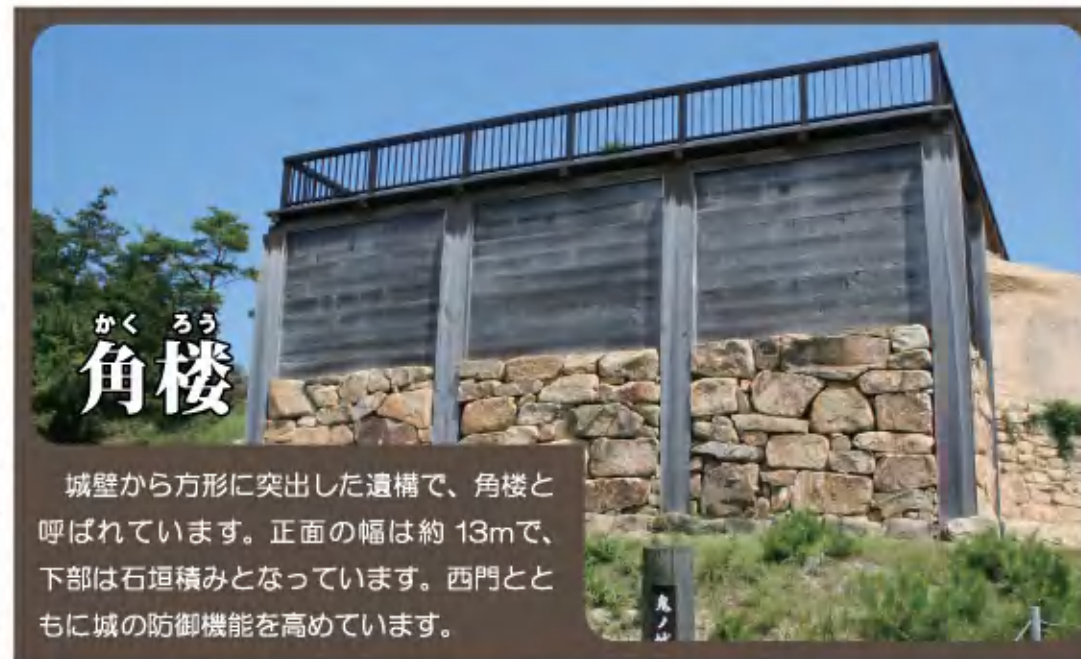
昭和53年(1978)に鬼ノ城の学術調査が行われ、その結果、山頂を鉢巻き状に城壁がめぐり、城内面積約30haの古代山城であることが判明しました。

平成に入り、発掘調査は総社市教育委員会に引き継がれ、城門、角楼の発見など数多くの成果を得ました。これらの一部は復元整備され、見学者に往時の姿を伝えています。



鬼ノ城では、4か所に城門が築かれています。城門はいずれも門道床面に巨大な花崗岩の敷石をほどこした、掘立柱構造の楼門となっています。断面が方形の角柱をもつ城門（西・南・北門）では、一辺が50～60cmを測る巨大な柱が使用されています。

城門のうち、西門については建物が復元され、その威容をうかがうことができます。



城壁から方形に突出した遺構で、角楼と呼ばれています。正面の幅は約13mで、下部は石垣積みとなっています。西門とともに城の防御機能を高めています。



鬼ノ城の城壁は、全周約2.8kmを測ります。基底部前面の列石の上に土を突き固めてつくった版築土壁や石垣のように石を積み上げた石壁が城を堅固にまもっています。城壁は、高さ5～7mもあり、上面には板塀または柵が、城内側には敷石がほどこされていました。



城内の雨水などを城外に排出するための水門が6か所で発見されています。下部を石垣積みとし、その上部は版築土壁としています。6か所の水門のうち、4か所には排水口が備えられています。

鬼ノ城 - 城内の調査 -

鬼ノ城では、調査や整備のすすんでいる城壁や城門などの外郭部に対し、城内については不明な点が多く、本格的な調査が望まれていました。岡山県古代吉備文化財センターでは、平成18年度から城内の発掘調査を開始し、その結果、城内の様相が次々と明らかになってきました。ここでは、その成果の一部を紹介します。



建ち並ぶ建物群



城内のほぼ中心部で、合計7棟の礎石建物が確認されました。礎石の一部には建物を支えた柱の跡がはっきりと残り、直径40～50cmの丸柱が使用されていたこともわかりました。建物は、柱(礎石)の配置により、総柱建物と側柱建物に分類できますが、前者は城内で必要とされた食糧や武器の保管庫、後者は付近で硯片が見つまっていることなどから、役人のいた管理棟と推定しています。



鍛冶工房の発見

城の東部で、鉄の道具を製作した鍛冶遺構が3地点で見つかりました。合計12基の鍛冶炉のほか、鉄滓(鍛冶に伴って排出される不純物のかたまり)、ふいこの羽口、砥石、鉄器片といった鍛冶にかかわる遺物が出土しました。城の中で必要な工具や武器を作っていた「鍛冶工房」の跡であることは確実です。

日本の古代山城のなかで、城内の鍛冶工房の様子が判明しているのは鬼ノ城だけで、注目すべき成果といえます。

城内で使用された土器

南向きのなだらかな尾根上で多数の須恵器・土師器が出土しました。これらの土器は、城内で使用されたのち、まとめて廃棄されたものと考えられます。土器は城内の生活の様子を知るための貴重な手がかりとなるだけでなく、城が機能していた年代を推測するための資料ともなります。この場所では、建物の柱穴も多数見つかったことから、城に駐留した人々が生活した「兵舎」の跡ではないかと考えられます。



城内の出土遺物

4年間の城内調査で、須恵器・土師器など多くの遺物が出土しました。なかでも須恵器は数多く出土し、^{つぎ ふた たかつき つば かめ}杯・蓋・高杯・壺・甕などが見つかりました。これらの須恵器は、その形態からみておおむね7世紀後半から8世紀初頭にかけての時期のものと考えられます。

出土遺物の中には、「^{えんめんけん}円面硯」といわれる硯もありました。これは、^{かんが}官衙(古代の役所)や寺院からの出土例が多く、城内に文字を使う官人がいたことを意味します。

また、「^{がとう}瓦塔」の出土も注目されます。寺院建築を模した土製品で、鬼ノ城と同時期のものとすれば、城内での信仰活動という鬼ノ城の新たな一面も浮かび上がってきます。

その他、鉄の道具を製作した鍛冶炉周辺からは多量の鉄滓やふいごの羽口が出土しています。

これらの出土遺物を詳しく調べていくことで、鬼ノ城が築かれた時期や利用された時期、築城背景などが解明されることが期待されます。



復元された円面硯



鍛冶関連遺物(ふいごの羽口、鉄滓、砥石)



屋根瓦が表現された瓦塔

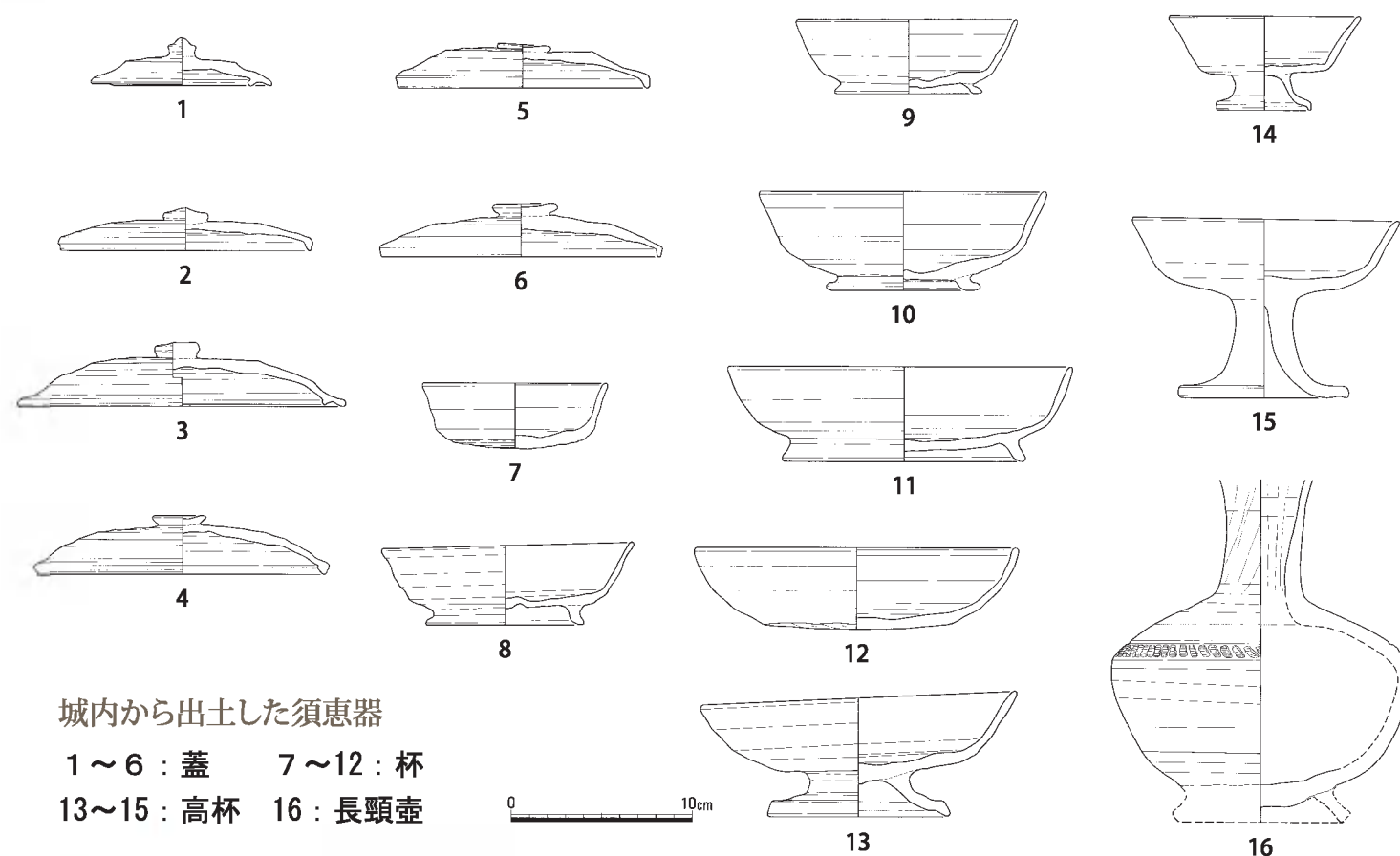


瓦塔(参考例)

静岡県浜松市北区三ヶ日町宇志出土
(奈良時代)
復元総高202.7cm
写真提供:奈良国立博物館



城内から出土した須恵器



城内から出土した須恵器

1~6: 蓋 7~12: 杯
13~15: 高杯 16: 長頸壺

0 10cm

コラム - 版築 -

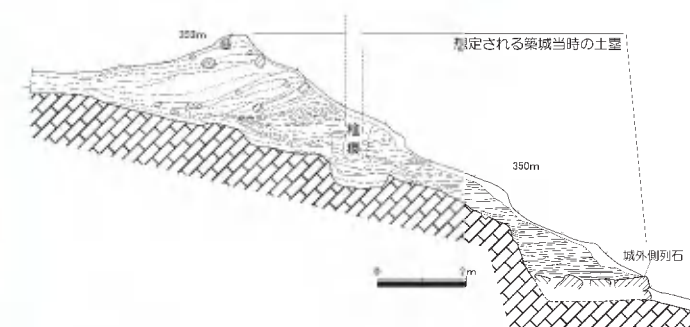


土層断面(平成11年度調査T54)

鬼ノ城の城壁では、ひとときわ目を引く高石垣ですが、実は城壁全周約2.8kmのうち、約9割は土を利用した土塁や自然地形を利用した城壁が占めています。

土塁は、板で枠をつくり、その中に土を盛り、一層ずつ突き固めていく版築という工法でつくられています。そのため、発掘調査で断面を観察すると、きれいな^{しま}縞模様の筋が観察できます。

版築は、^{きだん}宮殿や寺の基壇などでも使用された工法で、当時の土木技術をうかがうことができます。



土塁復元図

県内の古代山城 - 大廻小廻山城跡 -

岡山県には鬼ノ城のほかに、もうひとつ古代山城があります。岡山市東区草ヶ部にある大廻小廻山城跡で、標高199mの小廻山と、隣接する大廻山を城壁が取り込んでいることから、この名前がついています。城壁の長さは約3.2kmを測り、鬼ノ城(城壁約2.8km)とほぼ同規模の山城といえます。城内の3か所の谷部には石塁が築かれ、一の木戸の石塁の城外向きの石垣は長さ24mを測ります(右写真)。



一の木戸の石塁



小廻山付近の土塁と列石

土塁は、城壁の外側の基底部に石材を一行に並べ、列石を覆い隠すように版築工法で盛られています(左写真)。したがって、城壁線も鬼ノ城と同様に、折れ線を描く多角形状となっています。

城門遺構や城内の建物は未確認ですが、出土した土器や他の古代山城との比較から、ほぼ7世紀に築造されたものと推定されます。

写真提供: 岡山市教育委員会

年表

時代	世紀	古代山城にかかわるできごと	岡山のできごと	日本列島のできごと
古 時 代 飛 鳥 時 代 奈 良 時 代	6世紀	百済が唐・新羅により滅ぼされる(660) 齊明天皇、百済への援軍を率いて九州へ(661) 白村江の戦い、日本・旧百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に大敗(663) 長門国の城・大野城・基肄城が築かれる(665) 高安城・屋嶋城・金田城が築かれる(667) 高句麗が滅ぶ(668)	このころ群集墳が盛んにつくられ、巨石墳(こうもり塚古墳など)も築かれる 前方後円墳がつくられなくなる はだわらはいり 秦原廃寺など初期寺院の建立がはじまる  このころ、吉備国が備前、備中、備後の三国に分けられる 備前国から美作国が分けられる(713) 吉備真備、留学生として唐へわたる(717)	仏教が百済から伝わる(538) 聖徳太子、摂政となる(593) 大化の改新(645) 近江大津宮へ都が移される(667) 中大兄皇子、即位し天智天皇となる(668) 王申の乱(672) 大海人皇子、即位し天武天皇となる(673) 藤原京へ都が移される(694) 平城京へ都が移される(710) 東大寺の大仏が完成する(752)
	7世紀	高安城が廃止される(701)		
	8世紀	備後国の茨城・鞆城が廃止される(719)		

(数字は西暦を示す)



※資料の無断転載・引用はご遠慮下さい。

編集・発行 岡山県古代吉備文化財センター
〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>
発行日 平成22年9月25日